

家と庭

南側の庭と東側のアプローチに向け
し字に巡らせた下屋が目を引く家。
軒下にこれほどの空間があれば
家族でお茶を飲むにも
ひよこり人が訪れてきても
使い勝手が良さそうで
毎日の庭仕事だって楽しそう。
家族を包む家という空間と
庭という外へ開いた空間。
その両者が直に接することなく
こうして下屋を挟むことで
見えてくる豊かさは、きっと
住まいそのものの寛容さ
施主をはじめ家を建てた人たちの
懐の深さに、大きく関わって
います。

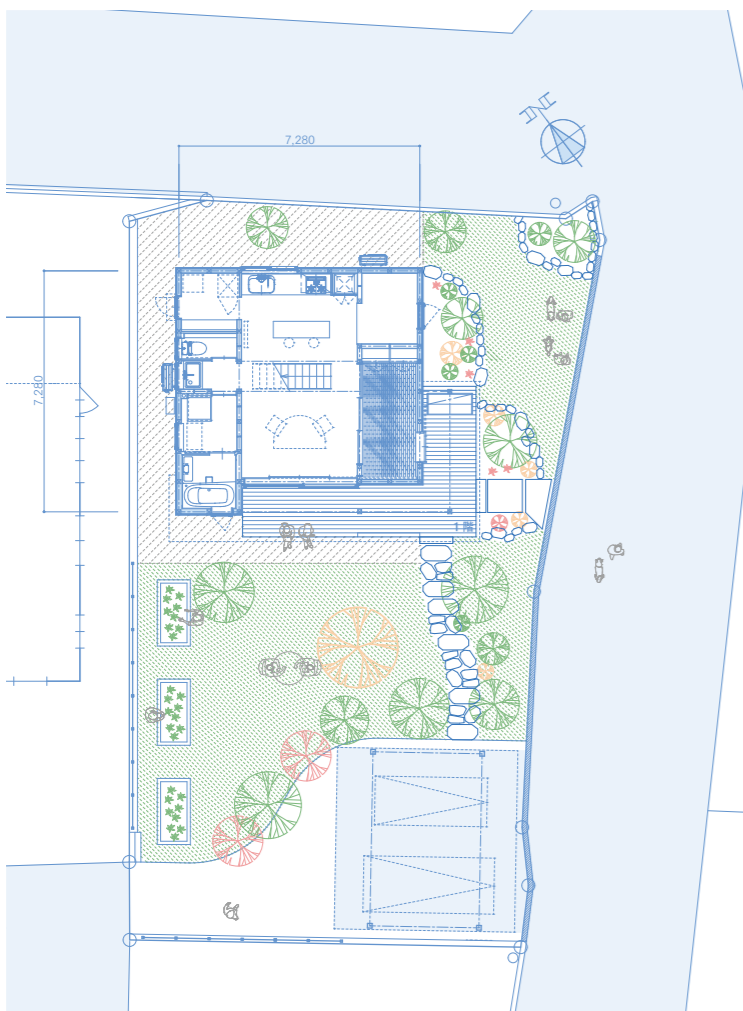


a・b・c 庭に面した南側から玄関のある東側までぐるりとし字に下屋を巡らし、ウッドデッキを施工した。屋内外をつなぐ中間領域としての役割を果たすが、家族にとっては何より寛ぎの場だ。ここに腰掛け庭を眺めながらひと息つくのが無上の贅沢だとご主人は話す。





f_建物高を抑えているから山の緑も見通せる。家を建てることで、もとからあった風景を損なうのではなく、むしろ引き立てる。そんな家づくりがまちの景観を良くしていく。
g_リビングから玄関まで下屋を巡らせたことで、ウッドデッキは動線としても機能する。



PLAN

湯本建築設計では、敷地における配置を開取りよりも優先する。ついで緑や駐車場を配する。プラン図で見ると、中間領域としての下屋や土間の、家全体に占める大きさがよく分かる。このスペースを庭や植栽との関係においてどう生かすかがN邸のテーマである。

敷地面積： 281.16㎡(84.88坪)
1F面積： 48.02㎡(14.50坪)
2F面積： 46.37㎡(14.00坪)
延床面積： 94.39㎡(28.50坪)

家の「構え」で まちは良くなる

家のつくり、特にその佇まいのことを「構え」といいます。構え方によって家は、周りの景色や人を受け入れられ、周りから受け入れられもします。

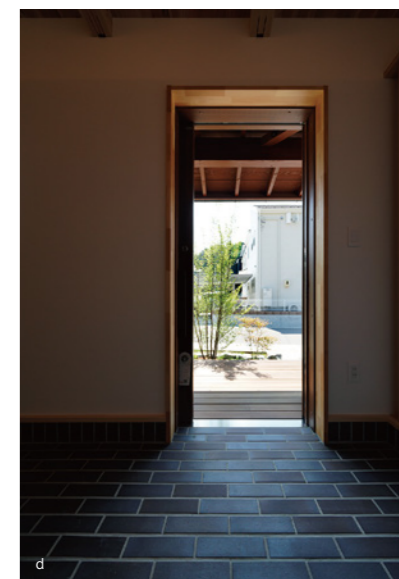
私有物である家をどう構えようが各々の自由でしょう。ただ、誰もが住まいをがっちり囲って外との接触を断ったり、贅を尽くして威圧したりしていいは、まちは美しくなりません。

構えとは工夫のことです。工夫次第で家は、まちを良くする方向に変えられます。たとえば、敷地の境界は植栽を使って緩く仕切る。建物の大きさ高さは抑えて出しゃばらない。工法や素材は土地に馴染むものにする。

大きな下屋もその一つ。仮にこれがないくても、建物を敷地の北側へなるべく寄せ、南側に庭を大きく取っているの、大開口を介した庭との間わりは楽しいはず。でも両者の中間領域とも言べき下屋の存在は、住む人と庭との関係をより実りあるものにし、さらにその外の世界との交歓にも大きな役割を果たしているのです。



d_玄関の広い土間から外を望む。下屋の軒天が美しい。 e_玄関前の植栽は、家の内と外を無粋な塀で仕切るより、目にも気持ちにも優しい。まちなに向けての配慮であり、内に対しても安らぎをもたらす。





家ができたことで、ご主人は長かった単身赴任生活をやめ、10年ぶりに家族一緒に暮らしを叶えます。人生の転機となる住まいづくりを湯本建築設計に託したのは、自分たちの願う暮らしに熱心に耳を傾け、共感し、要望をすべて詰め込みながら、期待以上のプランを提案してくれたからです。そこで思ったのは、人を大切にしてくれる安心感でした。同じ思いをNさん家族は、設計担当にも大工や職人にも社長にも、彼らをつなぐ窓口担当にも感じまし

人と人を大切にしたい家づくり

た。そして気付ききます。湯本建築設計が大切にしているのは、施主である自分たちのみならず、家づくりに向き合う職人であること、これから自分たちが絆を深めていく地域との人々であること。工務店選びをしていたとき同社の手がけた家を見て、そのすべてに感じたのは、家と庭の調和でした。いま、人を大切にする安心感が成す家と庭の調和が、また一つのまちに増えました。



外に向かって優しくあることは家の中の寛ぎと両立する

住まいが外に向かって優しくあることは、実は家の中で感じる寛ぎと両立します。たとえば、敷地の境界の植栽は折々に表情を変えながら屋内に清かな風を運びます。信州の風土に馴染む工法や内外の材は、日々の暮らしの快適さを約束します。建物高をぎゅっと抑えたことの利点も屋内で感じられます。1階と2階が近いので、将来歳を重ねても行き来が億劫にならないこと。冷暖房効率に優れること。天井の低さはむしろ、安定感や落ち着きを日々の暮らしにもたらしてくれます。空間に圧迫感を感じないのは、窓の



配置と階段のつくりや位置を工夫して、視線の抜けを水平方向にも垂直方向にも確保しているからです。窓の配置といえば、湯本建築設計の特徴である南に面した大窓に加え、この家では2階に設けた東西の窓が秀逸です。西には善光寺雲上殿の森が、東には長野市城山動物園に連なる森が望めて風通し良く、隣家の存在も気になりません。外の世界の招き入れ方、なんと巧みなことでしょうか。下屋の存在が庭の楽しみ方の幅を広げることは先に触れたとおり。奥様はここにレイズドベッドを設けて野菜づくりを始めるそうです。



h_ 庭と向き合うリビングの窓を一杯大きくとった。窓を開け放せば、リビングが屋外とつながることで実際の床面積以上の豊かさを受用できる。 i_ 建物高を低く抑えているので、1階と2階が近い。決して窮屈には見えず、上下の移動が楽になるし、暖房効率の面でも有効。 j_ 親子が立つ2階の西窓からは善光寺雲上殿の森が見える。とりわけ雪景色が素晴らしいという。



ブランドブック差し上げます

家と庭が寄り添うデザイン
湯本建築設計

長野県長野市吉田五丁目9番16号 Tel 026-219-3351
E-mail: info@yks-house.co.jp www.yks-house.co.jp



お問い合わせ
資料請求は
QRから▶

